

# IPU MAG

Iwate Prefectural University Magazine 2013 Autumn Vol.

57

[特集1]

## 地域の ためになる 復興住宅とは？



宮古発・復興住宅めぐだまり建設プロジェクト

[特集2]

## 学生の継続的な 復興支援活動



IPU-研究室へようこそ!

IPU TOPICS

地域をつくる希望の星たち

県大いいね!キャンパスナビ



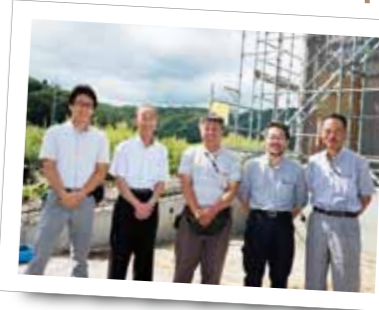
岩手県立大学

地域のためになる復興住宅とは？

# 地元企業のチカラをつないで、地域再生につながる家づくりを。



震災による県内の全壊棟数は、約2万1000棟。高台移転等に伴い、数年後には大量の住宅建築が始まると見込まれています。そのような中、宮古地域の建設会社と岩手県立大学が連携し、プロジェクトを発足。地域に根ざした復興住宅の取り組みを紹介します。



がれきの山から復興への足がかりを見つける。

業、住宅関連の企業と交流がありました。そんな関係から親しい企業の被災状況を見て、がれきを活用して復興に役立てたいと考えたのです。

「この膨大ながれきをパーティクルボード(以下PB※)に再生できないだろうか」。がれきに覆い尽くされたまちの惨状を目の当たりにしながら、盛岡短期大学の内田信平准教授は、こんな思いを抱いていました。震災直後、深刻なカウリン不足に見舞われた岩手県内。被災地の様子が気になりながらも身動きの取れなかった内田准教授は、平成23年3月29日にやどこの思いで宮古市に足を踏み入れました。

宮古地域では、平成13年から「宮古・下閉伊モノづくりネットワーク」林産部会という産官学連携組織が発足。アドバイザーとして参加していた内田准教授は、同地域の林業、木材産

地元のPBメーカー宮古ボード工業は、浸水したものの被害は比較的軽微でした。しかし、原料チップの供給が途絶。内田准教授は岩手大学の関野登教授と共にがれきの再資源化を提案。この提案をきっかけとして、木質がれきを原料に利用したPB「復興ボード」が生まれました。それと並行して、内田准教授らは復興ボードを利用した仮設住宅を計画。仮設住宅の公募には採用されなかったものの、仮設団地内の集会施設として採用されました。PB製造から現場施工まで、すべてを地元企業の手で行った施設の完成は、復興への新たな一歩でもありました。

地元の企業による家づくりで、地域経済の再生を目指す。

震災後、これまで営業拠点を持たなかった大手住宅メーカーが二気に沿岸部に進出。強力な営業活動を始めました。このような状況の中、内田准教授はモノづくりネットワーク林産部会のメンバーに集まってもらい、「復興のための高性能な住宅を地元企業の手で供給すること

保することを目指し、構法の合理化により安定した品質で施工できる住宅です。また、丸太の生産から、製材、プレカット加工、断熱パネル製作、建設工事まで、地元で完結できることが大きな特徴です。「これは単なる家づくりではありません。地元企業が復興のための住宅を担うことで、地域経済の再生につながる。これが目的なんです」と、内田准教授は力を込めます。平成24年8月には第号となるモデルハウスが完成、現在は2棟目の建築が進行中です。一方で、内田准教授は、盛岡短期大学の本間義規教授と協力し、居住環境の調査を進めながらさらなる性能向上に取り組んでいます。

この住宅では、地域材を活用した軸組構法をベースに、復興ボードを面材とした断熱パネルを組み込む構法を採用。高い耐震性能と断熱気密性能を、低コスト、短工期で確

出した「めぐだまり建設プロジェクト」。今後も地元企業と連携しながら、新たなプランの検討や協力体制の拡大を進めていく予定です。

「地域の方からのメッセージ」

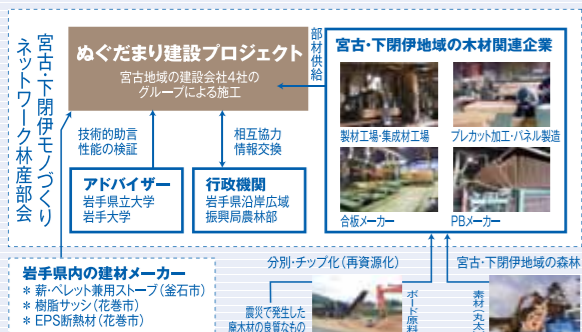
甲斐谷建築企画 甲斐谷 修治氏



「今後は沿岸と内陸のコーディネートも手伝って」と話す、甲斐谷さん。

被災地の工務店として、地域のために自分たちができることは何か。そんな思いから生まれたのが、このプロジェクトです。2、3年後に来る第二次住宅建築ブームに対応するためには、大量に建築できる規格住宅が必須。しかし我々には個々の技術はありますが、それを実現するノウハウがありません。誰が施工しても品質が変わらず、効率よく建てられる地域のための復興住宅。これを図面に落とし、実現できる形にしてくれたのが内田准教授です。現在、2棟目を建築中ですが、「めぐだまり建設プロジェクト」は我々の武器となるもの。2棟でも多く手がけられるように、実績を積んでいきたいですね。

## 「宮古発・復興住宅めぐだまり建設プロジェクト」の流れ



- 1 山田町で施工している2棟目の住宅の前で打ち合わせを行う、「めぐだまり建設プロジェクト」のメンバーたち。
- 2 復興ボードを面材とした断熱パネルを天井に施工。予め工場でパネルを製作し、現場で組み込む構法を採用している。
- 3 新たな復興住宅の建築に向け、打ち合わせを行うメンバー。「地域のために」という思いはみな同じ。
- 4 地元材をふんだんに使った、プロジェクト第一号のモデルハウスの室内。暖房には電気を使わないバレットストーブを採用。
- 5 プロジェクトのベースとなった仮設集会所の外壁には塗装した「復興ボード」が使われている。
- 6 平成24年9月に行われたモデルハウス見学会の様子。清々しい木の住まいは、見学者にも好評だった。
- 7 宮古市に建てられたモデルハウスの外観。プロジェクトの取り組みが認められ、「第8回木の建築賞」を受賞した。



(※) 木材などの小片を主な原料として、接着剤を用いて熱圧成形したボード。家具や建築の材料として用いられる。

# 「IPU-研究室」へようこそ!

岩手県立大学は、地域のシンクタンク。学内では日々、様々な研究や教育活動が行われています。こちらでは、大学全体を大きな研究室にみたくて様々な研究教育活動をご紹介します。



◎講座プロフィール  
 「環境政策講座」で指導するのは、様々な分野で研究に励む教員たち。生態学や自然地理学といった自然系の学問から、環境政策や都市計画などの行政やまちづくりに関わる学問まで、とにかく幅広い。夏は調査のために県内外を飛び回り、冬は研究室にこもって集めてきたデータを分析・研究。県立大学の中では珍しい、アウトドア派の講座であり、研究肌の教員がそろっている。

写真左から  
 島田 直明 准教授  
 辻 盛生 講師  
 渋谷 晃太郎 教授  
 金子 与止男 教授  
 佐野 嘉彦 教授  
 吉木 岳哉 教授  
 鈴木 正貴 助教

※この他、講座に所属する教員  
 倉原 宗孝 教授  
 豊島 正幸 教授  
 平塚 明 教授

## 今回の研究テーマ 野外調査を通した多角的な環境研究 [総合政策学部 環境政策講座]

複雑な環境問題を解決するために、幅広い知識や多面的な視点を養う。

総合政策学部という文系のイメージを抱く人が多いと思いますが、自然環境を研究対象とする講座があることをご存知でしょうか。ここでご紹介する「環境政策講座」は、様々な原因が複雑に絡み合う環境問題の解決方法を考える講座です。その内容は幅広く、生態学・水環境学・地理学等から、景観・自然環境の保全・管理、環境政策等にわたるまで様々。野外での実習や演習を主体にした授業が特徴で、2~3年前期では大学に隣接する滝沢森林公園や八幡平周辺をフィールドに、地図や空中写真の判読、植物の分類、野鳥調査、水質調査などに関連する事柄を学習。3年後期にはアンケートやヒアリングを通してまちづくりを考える実習などを行い、これらの実習・演習で学んだ多面的な視点と様々なフィールド調査を応用しながら卒業論文に取り組んでいます。



河口部付近の生態系の回復状況を調査する学生たち。

河口部付近の生態系の調査を通して、自然保全の視点から政策提言を行う。

環境政策講座の中から、研究の一例をご紹介します。海沿いの河口部や干潟は、魚類の産卵場や渡り鳥の中継地として重要な場所ですが、震災によって干潟は破壊され、多くの海浜植物が消滅してしまいました。そこで渋谷晃太郎教授、島田直明准教授、鈴木正貴助教のグループは、河口部から海中の藻場までの生態系を調査。2年間にわたって砂浜、藻場の回復状況や新たに形成された干潟を調べ、植物や魚類に及ぼす変化などを明らかにする研究に取り組んでいます。この調査結果に基づき、自然の再生力に任せるべきか、あるいは人為的に回復を促進すべきかを考察。これまで手つかずであった「自然環境の復興」に目を向け、自然再生や保全方法、公共事業での配慮などについて、政策提言を行っていく予定です。



八幡平実習では野生動物や水質、植生調査等を行う。

総合政策学部 環境政策講座 <http://www.poly.iwate-pu.ac.jp/env/>



## 震災からの復興にふさわしい住まいとは?

今回のテーマに関するアイデアをtwitterで募集したところ、地域のつながりや、人間関係に着目したものなど、さまざまなツイートをいただきました。その中からアイデアをいくつかご紹介します。



先日テレビで、仮設住宅に住む高齢者が「復興住宅が完成しても、仮設で家族同然に暮らしてる人達とバラバラになりたくないから、このまま仮設暮らしでいい」と言っているのを見ました。全員一緒に移るのは難しいとしても、高齢者が孤立しないような工夫も大事かと。  
@ta\_mina

若者は若者同士、高齢者は高齢者同士と孤立してしまわない街づくり、地域で手を取り合い笑顔と笑いの絶えない、生きているのを実感できる場所。漠然とした言い方ですが・・・@cucikon

震災とか復興に限らず子どもや高齢者、妊婦さん、若者、障害者、様々な方が関われる環境がほしいですね。放課後子どもたちが集まる学童のような場所におじいちゃんおばあちゃんもいる、みたいだね。 @sa\_jda

一人暮らししてると感じるけどシェアハウスとか良いよなあって思います。。 @nObisuke

やはり人と人との繋がりが重要だと感じます。顔の見える街づくり @Nandarikan

被災された方の住まいの再建に向けて、行政から様々なメニューが用意されています。例えば自力で再建を目指す方には、県や各市町村から補助金が支給されます。一方、比較的低廉な家賃で入居できる災害公営住宅の整備も進められており、各地の土地事情などに応じて集合住宅タイプ・長屋タイプ・戸建てタイプが用意されています。これらのメニューの中からご家族の事情やご希望に応じてそれぞれ選択されるのが相応しいと思います。 @ickyoku\_ipu

災害公営住宅も集団移転団地も「集まって暮らす」ということ。今回のツイートでは、「どのように集まって暮らすか」に関する意見が印象的でした。これまでのつながりを活かしながら、多世代の人たちが関わることのできるコミュニティを、いかに作り、育てていくかが大切なのだと思います。

**Comment**



盛岡短期大学准教授 内田 信平

※誌面のスペース等の都合により、お寄せいただいたツイートのうち一部の掲載とさせていただきます。

### [特集に関するアイデア・ツイートの流れ] twitter

特集を読んだご意見・ご感想も募集していますので、公式アカウントにツイートください。

- 1 公式アカウントで「お題」を確認
- 2 twitterにアイデアをツイート
- 3 投稿アイデアが次号誌面に掲載

※ツイートの際には、文末に「#ipumag(発行号数)」を付記してください。「発行号数」は、本号では「57」、次号では「58」と変化しますので、「#ipumag57」「#ipumag58」のように表記してください。このことにより、様々なアイデア・ご意見を内容別にグループ化でき、誌面へ反映することができます。ご協力をお願い致します。

※皆様からのツイートは、本誌などで掲載させていただく予定です。ただし、誌面の都合により、全てを掲載することができない場合がありますのでご了承ください。

次回の「お題(テーマ)」はツイッター上で発表します。一般の皆様、学生・教職員の皆様からのツイートを広く募集しています。たくさんのお待ちしています!



(写真上)いわてGINGA-NETプロジェクトの活動で、地域住民の農作業を手伝う学生たち。(写真下)「岩手みらいトークサミット」で若者たちにアドバイスする復興ガールズ&ボーイズのメンバー。

## 被災地の変化に対応しながら、新たな支援のカタチを模索する。

東日本大震災から2年半が経ち、被災地では様々な変化が見られるようになりました。発生直後から学生たちが自主的に立ち上げた支援活動は、現在、どのように継続されているのでしょうか。平成25年夏、学生たちの「支援活動の今」をレポートします。



「宮古街なか復興市2013」をサポートする、宮古短期大学の学生赤十字奉仕団。



看護学部生の専門知識や技術を生かした支援活動が、カッキー'sの特徴だ。



復興girls&boys\*が主催した「岩手みらいトークサミット」の沿岸視察の様子。



いわてGINGA-NETプロジェクトでは、学生キャストが中心となって活動を支援。

### <学生たちの主な復興支援活動>

#### ■ いわてGINGA-NETプロジェクト

全国の学生ボランティアが岩手の被災地に集結し、お茶っこサロンや子どもの学び支援、農業や漁業の仕事支援など、様々な活動を展開している。なお、初年度から運営に携わってきた本学学生がNPOを設立。卒業後もプロジェクトの中心となり後輩たちの活動を支えている。

#### ■ 復興girls&boys\*

仕事の復興支援をテーマに、被災企業の商品販売や被災地のPRIに取り組むほか、高田松原の松を使ったキーホルダーや裂き織りコースターなど、自ら商品開発にも挑戦。今年は、ウニやアワビなどが入った「海の幸ろっけ」を開発し、好評を博している。

#### ■ カッキー's

看護学部の学生たちで立ち上げた「カッキー's」は、平成23年11月から活動をスタート。月1回、山田町の仮設住宅に赴き、住民と交流をしながら、血圧測定やマッサージなども実施。住民の体調管理もサポートするなど、看護学部ならではの活動を展開している。

#### ■ 宮古短期大学部「学生赤十字奉仕団」

県内唯一の被災地の大学として、宮古市社会福祉協議会と連携しながら地域に根ざした活動を展開。仮設住宅での住民との交流や手づくりの食事の提供、中学生に対する学習支援、年少の子どもたちとの遊びを通じた教育活動など、積極的に支援を行っている。

#### [活動に参加している学生から]

いわてGINGA-NETプロジェクト

山本 亜胡 さん(社会福祉学部2年)

昨年から仮設住宅を出る人が増え、被災地の状況が大きく変わっています。求められる支援も変化しているため、「自分たちは役に立っているのか」と悩む学生ボランティアも多く、そのサポートが難しいですね。でも支援活動で出会った住民の方々が、次に向かって前進するのはうれしいこと。このご縁を大事につなぎながら、少しでも自立のためのお手伝いができればと思っています。



復興girls&boys\*

猪股 菜美 さん(総合政策学部3年)

復興のために力になりたいと思って、この活動を始めました。被災地の変化や震災の風化を目の当たりにし、新たなニーズを見つける必要性を感じています。そのためにはこれまでの活動にとらわれず、新たなことに挑戦していくことが大事。その一歩として開催したのが「岩手みらいトークサミット」ですが、今後はもっと被災地に向き、人々との交流を深めていきたいと思っています。



震災が発生した平成23年、岩手県立大学では、学生たちによる様々な復興支援活動が立ち上がりました。被災地と学生ボランティアをつなぐ「いわてGINGA-NETプロジェクト」、「仕事の復興」をサポートする「復興ガールズ」、住民の心と体のケアを行う「カッキー's」、被災地の大学として支援活動を行う宮古短期大学部の「学生赤十字奉仕団」など、学生たちの活動は被災地の住民たちに元気づけと希望を届けました。

いずれば若者と岩手を結び、復興を超えた新たな活動へ。

平成23年夏、学生ボランティアによる復興支援プロジェクトとしてスタートした、「いわてGINGA-NETプロジェクト」。これまで全国から延べ1万人以上の学生を受け入れ、ボランティアの滞在拠点の運営や活動のサポートを行ってきました。

風化を食い止めるために、内陸と沿岸を結ぶ役割を。

開始当初は住民との交流が中心でしたが、仮設住宅から自立する住民が増えるに従って、ニーズも変化。新たに漁業や農業を始めるお手伝いなど、次のステップに進むためのサポートへと変わりつつあります。そのため住民とのふれ合いを期待する学生ボランティアに、どんな達成感を与え、モチベーションを高めてもらうのかが大きな課題。これまで以上に綿密に被災地と学生をマッチングできる、高いコーディネート力が求められていると、運営サイドは感じています。

岸と内陸の企業をつなぎ、「海の幸ろっけ」という新商品を開発したり、商品のラインナップを広げるなど、新たな取り組みにも挑戦しています。そんな中で痛感しているのが、震災や被災地に対する関心の低下。以前は飛ぶように売れていた商品が、今手に取ってもらうことが難しくなっているといえます。この状況を何とかしたいと開催したのが、今年の8月31日に行われた「岩手みらいトークサミット」。温度差をテーマに、内陸と沿岸の若者たちがデイスカッションを行い、解決の糸口を探りました。

被災地のニーズが変わる中、支援活動のあり方にも変化を求められる学生たち。自由な発想で、学生にしかできないことをやっていきたい。そんな思いを抱いて、次なる展開を模索しています。





TAKIZAWA 7.7

### 県内外からたくさんの参加者が来場、オープンキャンパスは今年も大好評!

7月7日に滝沢、7月28日及び8月25日に宮古の各キャンパスにおいてオープンキャンパスを行いました。滝沢キャンパスでは大学や学部・短期大学部についての説明会、模擬講義、学部紹介イベント、施設見学、キャンパスツアーなど多彩な企画はもちろん、学生による大学生活の紹介や大学内の各所にあるチェックポイントを探すスタンブラリーなども好評。約2500名の方にご来場いただきました。また、宮古キャンパスでは、過去最高の142名の方にご参加いただき、特に先輩による施設・学生寮見学や体験談の紹介が好評でした。県内外から来場いただいた高校生や保護者、高校教員の方々に、県立大学・短期大学部の魅力を楽しみながら体験していただきました。



MIYAKO 7.28, 8.25



7.3

### 自分の好きな本を熱く語れ、ビブリオバトルで会場は白熱!

7月3日、メディアセンター図書館にて書評イベント「岩手県立大学版ビブリオバトル」が初開催されました。ビブリオバトルとは1人5分間で本を紹介し、最後に参加者全員で「一番読みたくなった本」について投票して、チャンプ本を決める書評バトル。7人のパトラーの熱いプレゼンに徐々に会場がヒートアップする中、今回は砂子将司さん(総合政策学部)紹介の「レヴォリューションNo.3(金城一紀著)」が見事チャンプ本に輝きました。



7.19

### 学生たちの多彩なステージが七夕祭の夜を盛り上げました

7月19日、学生による恒例イベント「七夕祭」が開催されました。今年はパレードアートの他に竹が設置され、願いを込めた多くの短冊が飾られました。学生イベントでは特にダブルダッチのダンスで大いにヒートアップし、様々な音楽サークルに加え、新たにマンドリンを演奏するサークルも登場。他にも、会場内を巡るスタンブラリーで盛り上がり、屋外では、天文同好会が望遠鏡を使って来場者に星座の説明をしていました。(出版委員会・堀田健仁)



7.27

### 陸前高田で水ボラ活動、奨学生と交流を深めました

東日本大震災の被災直後から、盛岡短期大学部の千葉啓子教授を中心とするメンバーにより行ってきた、広田半島の被災者等にペットボトル水を配布するボランティア活動、通称「水ボラ」。7月27日の水ボラでは(財)本庄国際奨学財団(株)伊藤園が設立)の奨学生も参加して、活動を通して本学学生との交流を深めました。(株)伊藤園から無償提供を受けたペットボトル水をトラックから降ろして、力を合わせて陸前高田市内の仮設住宅等に配布しました。

### 出場者全員のチームワークで県大は4年連続で最優秀団体に!

毎年8月1日から4日間に渡り盛岡市中央通りで開かれる盛岡さんさ踊りに、今年も県立大学さんさ踊りチームが参加しました。学生はもちろん、教職員もパレードに加わり、学部や出身地の壁を超えて、盛岡市の夜を太鼓や笛の音色と「さっころちいわやっせ」のかけ声で彩りました。今年も最優秀団体に選ばれ、4年連続の快挙を成し遂げました。(出版委員会・山崎智水)



8.1~4



8.5~9

### ソフトウェア情報学部で夏休みオープンラボを初開催

ソフトウェア情報学部では、進学を考えている高校生を対象に夏休み期間中の8月5日から9日の5日間「夏休みオープンラボ」を開催しました。ガイダンス、大学生生活紹介、昼食、ゼミへの参加、そして交流会を通して、学部の研究室生活を一日かけてじっくりと体験。参加した高校生たちは学生食堂で先輩たちと一緒に昼食を食べたり、学部で実際に行っている研究の話を知りながら、大学生活への理解を深めていました。



7.17

### アプリで盛岡について詳しくなろう。

ソフトウェア情報学部情報システム構築学講座では、地域を盛り上げ、他県の人々にも盛岡を紹介したいとの思いから、「盛岡もの知り検定-もりけん-」の過去問題を解くことのできるサイトを公開しています。さらにこの「もりけん」に、いつでも気軽に挑戦できるよう、より親しみやすい問題を収録したスマートフォン用のアプリケーションを開発・公開。これを通じて盛岡の知らなかった魅力を再発見したり、訪れたことのない人にも広く紹介できるようになりました。(出版委員会・千田裕太)  
※アプリ紹介ページ <http://sakumon.jp/app/>



8.9

### イマドキの大学生の読みたい本は? 学生目線で選ぶ「選書ツアー」開催

8月9日、盛岡市内の書店にて図書館主催の「選書ツアー」が行われました。学生目線の選書による使いやすい図書の実用を目的に、学生が書店で本を手に取って本を選ぶ企画です。参加学生はそれぞれに、読みたい本や図書館に置いてほしい本を真剣に選んでいました。選ばれた書籍は本学のメディアセンター図書館に10月から展示され、閲覧や貸し出しが始まる予定です。

# I P U T O P I C S

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。

## 10月26日・27日は大学祭! 楽しいイベントいっぱいの滝沢・宮古の両キャンパスへ!

### ■滝沢キャンパス

テーマ「**心会-16とどりの笑顔-**」

意味:心と心が触れ合って、16とどりの笑顔が生まれるような大学祭に岩手県立大学大学祭を通してイベントや企画などに関わったすべての方々、また来場して下さった皆さまの心が触れ合うことによって、人と人の新たなつながりを生む場とした。また、大学祭という非日常的な場であるからこそ、普段は表に出すことのない感謝の気持ちや尊敬の気持ちを伝える機会としてもらいたい。そして、今年が16回目ということから、16とどりの笑顔が生まれるような大学祭を目指すことを目標とし、このテーマを掲げました。

○主なイベント紹介

**県大的選手権** / 最強に運が悪い人決定戦を開催!ロシアンルーレットを行い、はずれを引き続けた人が優勝になります。優勝には豪華商品をプレゼント! **Fancy** **こずぶれーしょん**♪ 講堂でコスプレまたはハロウィン仮装の発表を行います!じゃじゃTVのTAG 3さんがゲストです!**ミニSL**/みんなで乗りに来てね!**モザイクアート** / 学生はもちろん、地域の方々や来場者の「16とどりの笑顔」を写真に収め、その写真でモザイクアートを作ります。**MG-1 グランプリ** / 模擬店の人気投票を企画!お気に入りの店舗に投票しよう!

### ステージタイムテーブル(26日)

時間	イベント名	主催団体
9:50~10:10	オープニングセレモニー	大学祭実行委員会
10:20~10:35	さんさ踊り	さんさ踊り実行委員会
10:45~11:05	睦大学 趣味の教室の発表	睦大学
11:15~11:45	ガンライザーキャラクターショー	テレビ岩手
11:45~12:15	ガンライザー握手会	テレビ岩手
12:25~12:50	ELECTONE LIVE 2013	エレクトーンサークル Joyful
13:00~14:00	チーム対抗なりきりコンテスト	大学祭実行委員会
14:10~14:40	うたたね日和	うたたね日和
14:50~15:10	音楽療法	ぼんラー(改)
15:20~16:20	県大的選手権	大学祭実行委員会
16:30~17:00	アップロオZアコースティックライブ	アップロオZ
17:10~17:50	純情MUSUME	岩手広告社
18:00~19:00	中夜祭	大学祭実行委員会

### ステージタイムテーブル(27日)

時間	イベント名	主催団体
9:50~10:10	オープニングセレモニー	大学祭実行委員会
10:20~10:50	Stage on JAM!!(仮)	JAM!!
11:00~11:20	ギタークラブLIVE@2013	ギタークラブ
12:30~14:00	アーティストライブ	大学祭実行委員会
14:30~15:00	軽音ライブステージ!!	軽音楽部
15:10~15:40	晩飯	ぼっち飯
15:50~16:15	シンガーソングライター夏海・DJ VIVA	シンガー夏海 & DJ VIVA
16:25~16:55	ア・カベラライブ2013	ア・カベラサークル Jelly Beans
17:15~19:00	グランドフィナーレ	大学祭実行委員会

※イベント名・時間については変更の可能性があります。

### ■宮古キャンパス

テーマ「**輪~つなぐ~**」  
時間:両日とも10:30~15:30  
○主なイベント紹介  
ピンゴ大会/  
スタンブラリー/仮装 他

### 講堂タイムテーブル(26日)

時間	企画・団体
12:00~14:30	同窓会
16:00~18:00	パフォーマンスコンテスト!

### 講堂タイムテーブル(27日)

時間	企画・団体
12:30~13:30	Polish
14:00~16:00	こずぶれーしょん♪
16:00~18:00	告白☆大会



※写真は昨年度の大学祭(滝沢)の様子

同時開催

## OPEN CAMPUS in IPU Festa 2013

今年も大学祭とオープンキャンパスがコラボレート!大学祭を楽しみながら、県大での学び・生活への理解を深めよう!!

■オープンキャンパスイベント(10:00~17:00)  
学部を身近に感じる体験・紹介イベントや、在学生の「キャンパス・アテンダント(CA)」が相談にのってくれるイベントも。さらに今年のトークイベントは、同窓会行事「ホームカミングデー」ともコラボ。ゲストをお招きして、県大などについて楽しく語り合います。迫力の大画面「ドライビングシミュレータ」などを体験できるI-MOS施設公開もお見逃しなく!  
詳しくは <http://www.iwate-pu.ac.jp/>

チャンスがある限り、つねに挑戦し続けたい。  
いつも、輝いている自分でいたいから。



地域貢献を使命の一つに掲げる  
岩手県立大学。  
学習や研究に励みながら  
地域に役立つ力を磨く在学生と、  
仕事を通じて  
地域づくりに関わる卒業生、  
それぞれの熱い思いを  
紹介します。

在学生

中学の頃から、将来は人と関わる仕事がしたいと考えていました。そのため高校では福祉や保育を学ぶコースを選択、卒業後は就職を希望していたんです。でも岩手県立大学を勧める先生の言葉がきっかけで、進路を変更。新しい大学なら自分の手で歴史を切り拓いていける...そう考えて入学を決めました。

社会福祉学部で学んでみて、特に興味を持ったのが精神障害者の社会復帰をサポートする精神保健福祉学。精神障害者を支える「身近な存在」としての家族に焦点を当て、「精神障害者の家族ケア」をテーマとした卒業課題研究に取り組んでいます。

勉強の他にも、学生が大学の広報を担うキャンパスアテンダントや図書館の案内をするライブラリーアテンダントにも参加。ETロボコン東北地区大会では、大学2年の時から司会を任せてもらっています。私がいろんなことにチャレンジするのは、いつも輝いていたという想いがあるから。様々な活動を通して学部や年代を超えた人々と出会うことは、とても刺激になり、自分を成長させてくれます。自分の起こした行動で、相手に喜んでもらえること、これが私の何よりの幸せです。

間もなく卒業ですが、この大学にはチャンスが原石がいっぱいあります。自分さえやろうと思えば、どんなことだって実現できる環境があります。就職しても大学で学んだことや出合いを大切にしながら、チャンスが原石を見つけ、無限の可能性に挑戦していきます。

瀬川輝美

「岩手県立大学社会福祉学部福祉経営学科4年」  
1991年花巻市生まれ。岩手県立花北青雲高校卒業。高校時代は、自ら生活研究同好会を立ち上げ、部長として活躍。日本の次世代リーダー養成塾メンバーにも選ばれ、全国の高校生と社会問題をディスカッションした経験を持つ。大学での活動は多岐にわたり、昨年は学生による復興支援イベントも主催。「でてる」の愛称で親しまれ、ここにもムードメーカー的な存在だ。

地域をつくる  
希望の星たち



卒業生

私の出身は軽米町なのですが、小さい頃から地域の絆の中で育てられました。野球部だったこともあり、いつも応援してくれる地域の温かさに触れるうち、「公務員になって地元のために働きたい」と思うようになったんです。

そのために選んだのが、当時新設されたばかりの岩手県立大学の総合政策学部。私は期生でしたので、先輩はいません。何をするにもすべて自分たちでつくらなければならず、野球部を立ち上げた際も9人からのスタートでした。学部では行政経営コースの財政ゼミに在籍、4年間の学びを通して公務員としての下地づくりができたように思います。

卒業後は県職員として、振興局の企画総務部、県庁の水産振興課、流通課で様々な仕事を経験。昨年の4月から本学に配属になり、学生支援室の職員として、学費支援、学生の課外活動、同窓会の支援などを担当しています。様々な地域、様々な現場の仕事に携われるのは、県職員の魅力のひとつ。大学はこれまでにない教育の場での仕事ですが、相手が学生であっても、前職で接した県民や企業であっても、課題を一緒に解決していくという点で仕事のスタンスは変わりません。学生が望むこと、悩んでいることに寄り添い、共に考えながらベストな道を模索する。そのために全力でサポートできるような心がけています。

ここで後輩たちのために働けるのは、本当にうれしいこと。卒業生ならではの強い思いを持って、学生たちと一緒に頑張っていきたいと思っています。

中村淳一

「岩手県立大学学生支援室学生支援グループ」  
1979年軽米町生まれ。岩手県立大学総合政策学部卒業。小学校から野球を始め、現在は夏は野球、冬は大学生のときに始めたスノーボードが趣味。県立大学の卒業生と一緒に仕事ができることを熱望しており、「公務員志望で勉強に悩んでいる学生がいたら、いつでも私の所に相談に来てください」とメッセージを寄せてくれた。

学生の悩みや希望に寄り添いながら、  
いつも全力でサポートしていきたい。

県大いいね! キャンパス・アテンダントがご案内します!

# キャンパスナビ

学生目線で大学の魅力楽しく発信するキャンパス・アテンダント。現在、40名の学生たちが活躍中です。そんな彼らが、大学の知られざる魅力を紹介するのがこのコーナー。毎回ユニークなネタが飛び出しますので、ご期待ください!

## Vol.5 / 大学サークル☆ピックアップ!(滝沢キャンパス編)

高校の部活動と違って、とにかくいろんな種類のサークルがあるのも大学の魅力のひとつ。今回は、ダブルダッチや居合道部など、ちょっと珍しいサークルをドーンと大公開!どんな活動を行っているのか、みんなでのぞいてみましょう!

### バルーンアートサークル

七夕祭や夢灯りなど、イベントの際に空間を彩るのがバルーンアート。イベントの度にみんなでアイデアを出し合って、デザインを決めていくのだとか。ただいま男子部員を絶賛大募集!



わたしも挑戦してみたいな!

### オリエンテーリング部

ポイントを探して自然の中を疾走する様子は、さながら宝探しのよう。一見気持ち良さそうに見えますが、大会ともなるとかなりハード。タイムを競って、熾烈な戦いが繰り広げられます。



みんな頑張ってるね~!

## CAがいま注目のサークルを紹介!

個性派サークルはまだあります!子どもたちと泥遊びを楽しむ「どろんこ隊」やKIPU\*Labo(化粧ボランティアサークル)、馬術部、少林寺拳法、手話サークル「ひだまり」などなど。勉強だけでなく、いろんな活動に夢中になれるのも大学生の特権なのです。

### ダブルダッチサークル

音楽に合わせて、ロープをくぐりながら軽やかにジャンプ!3分間のパフォーマンスを見せるダブルダッチは、学生たちの表現の場。曲の編集や衣装選び、振り付けも、すべて学生たちで手がけるそう。



優勝目指して、ゴー!ゴー!!

### 居合道部

戦国時代に始まったという歴史ある居合道。相手の動きを想像しながら、刀を振るって型を決める様子が、なんとも凛々しい!心が落ち着き、精神力が磨かれるのが、居合道の魅力とか。



楽しいサークルがいっぱいだよ!

### 編集後記

息の長い復興支援が求められる中で、学生たちの活動も世代交代をしっかりと行い、そして何より活動内容も現地のニーズの変化にあわせながら着実に継続されています。「わて(GENABELプロジェクト)の『夏銀河2013』を私も現地で取材しましたが、活動メニューの内容や交わされる会話の中から、現地のニーズが変わってきていることを強く実感しました。学生らしさを発揮しながらどのように形で支援に取り組んでいくことができるのか、引き続き期待しながら見守りたいと思っています。(広報担当・鈴木亨)

猛暑と豪雨の異常気象に見舞われた夏も終わりを迎えました。各地で被害を受け被災された方々の一日も早い復興をお祈り致します。さて、間もなく大学祭が行われようとしています。私の所属しているサークルでも徐々に準備が始めています。今年の大学祭は私たち1年生にとって主催側として初めてであり、不安ではありますが皆様に楽しんでもらえるよう精一杯努力したいと思います。(出版委員会・千田裕太)

七夕祭の取材で撮影にも挑戦したのですが、記事に合った写真を撮ることの難しさを実感しました。カメラを持って歩き回り、数多くの写真を撮りましたが、ありきたりな構図になってしまうことがほとんど。自身の撮影技術もありますが、狙っていても良い表情を捉えることが難しかったです。これから記事に使う写真を撮るときは、撮影のコンセプトや目標を決めて撮影したいと思います。(出版委員会・堀田健仁)



岩手県立大学 企画室 協力:岩手県立大学出版委員会  
Iwate Prefectural University

〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52  
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001  
[URL] <http://www.iwate-pu.ac.jp/>  
[e-mail] [management@ml.iwate-pu.ac.jp](mailto:management@ml.iwate-pu.ac.jp) 発行:2013年9月30日